

善勝寺だより

ZENSHOJI DAYORI

善勝寺だより第130号
令和7年3月8日発行
〒365-0013 埼玉県
鴻巣市境147 善勝寺
TEL 048-569-0810
発行責任者 明見弘道

一点梅花の蕊 三千世界香し

境内の紅梅は満開となり白梅も開花してきました。まだまだ風は冷たいですが待つてた春がやつて来ました。(二月二十五日)檀信徒の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年には彼岸法要の施本として、仏教伝道協会から出版された「禅僧は語る」を用意しました。この本は著名な禅僧(臨済宗・曹洞宗・黄檗宗)十四名の法話集であります。

あいうえお順になつていまして、初めが「青山俊董老師」最後が「横田南嶺老師」です。

お二人とも鴻巣市仏教会主催の講演会にお招きした老師様で、この善勝寺便りによく著書から引用させて頂いております。

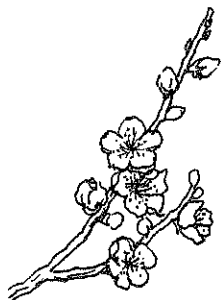
俊董老師の「脚下を看よ」をご紹介します。

うらかな春の日差しの降りそそぐ中を、お釈迦様は何人かのお弟子さんと共に、野中の道を歩いておられました。冬の眠りから醒めた草々が、とりどりの花を咲かせている丘に立たれ

たお釈迦様は、足もとを指して、「ここにお寺を建てるといいね」とおっしゃいました。お弟子さん達にまじつてお伴をしていた帝釈天が、一本の草をお釈迦様の指された所に挿し、「お寺が建ちました」と申し上げ、お釈迦様は満足げにニッコリとほほえまれた、というのです。

これは「従容録」という禅の語録「世尊指地」にあります。春の一日の一瞬の出来事を、一幅の絵のように描き出していますが、一体何を語ろうとしているのでしょうか。

(この続きは次項をご覧ください) さて、冒頭の「一点梅花の蕊三千世界香し」ですが、梅は寒苦を経て清香を放つと言います。人も苦勞を経験した者こそ人間味が生まれます。他人に対する優しさもそこから生まれます。他を思いやる一人の優しさが連鎖し、平和な世界を実現できる事と存じます。



「ご案内」 春季彼岸会

左記の如く、彼岸法要を厳修致します。

檀信徒の皆様、多数ご参拝下さいますよう謹んでご案内申し上げます。

記

三月二十日(木曜日)

午後二時より

彼岸法要

法要終了後

任職の話

三時頃終了予定。



塔婆お申し込みされた方は、供養料と併せて一基六千円を、本堂前机のお盆にお供え下さい。二十日の彼岸供養並びに法話会は、塔婆をお申し込みでない方も、彼岸供養料(三千円程度)を、お供え下さいますようお願い致します。

彼岸の塔婆は、電話かFAXまたはメールで、お早めにお申し込み下さい。

temple@zensyoji.or.jp

その時、施主名のほか、戒名、お参り予定日もご記入願います。

(前ページの続き)

「法華経」に次のような言葉があります。

もしは園中においても、もしは林中
においても、もしは樹下においても、
もしは僧坊においても(中略)もしは
山谷広野にても、この中にみなまさに
塔を建てて供養すべし。ゆえはいかん。
まさに知るべし。この処は即ちこれ道
場なり。

要するに「いつ、どこにあつても、
今、此所に生命をかける。」

それよりほかに我が人生の建立はな
い。いつかどこかへとよそ見をするな
というのです。

どの一刻も「今」でない時はなく、
「ここ」でない場所はない。

食事をしている「今ここ」もあるで
しょう。お手洗いで用をたしている「今
ここ」もあるでしょう。喧嘩をしたり、
愚痴をこぼしたりの「今ここ」もある
でしょう。

どの一瞬も、一度去れば再び帰って
こない。つまりやり直しのきかない、
しかも誰にも代わってもらえない私の
生命の歩みなのです。

人生の旅路の中には喜びの日も悲し
みの日も、逃げ出したいにもあるでし
ょう。逃げず追わずぐずらず、のぼせ
あがらず、おちこまず、いかなる「今

ここ」に対しても姿勢をくずさず。前

向に取り込むことができたとき、そこ
に塔が建ったといえるのです。光かが
やくような雑巾がけができたとき、皆
が喜んでくれるような料理が出来たと
き、病気や失敗を財産に切り替えるこ
とができたとき、そこに寺を建てるこ
とができたといえるのです。寺とか塔
といつても、いわゆる寺でも塔でもな
く、置かれた場所でなすべきことと
をなし得たとき、野っ原であろうとそ
こで道が行ぜられたとき、そこに大殿
堂が建ち、塔を建てて供養したといえ
るのです。」(以降略)

最後は、「人生の生き方は『歩々是
れ道場』の一句に尽きるといえるでし
ょう。」と結んであります。

施本は玄関や本堂に置いてあります。
ご自由にお持ちになり、お読み下さい
ませ。以下目次よりタイトルを紹介し
ます。

脚下を看よ (脚下照顧)

慧可断臂

莫妄想

一期一会

一塵の中に無量の諸仏

平常心是道

青山 俊董

大谷 哲夫

川野 泰周

近藤 博道

酒井 大岳

田上 太秀

日月流るるが如し 中野 東禅

自己に向かつて見究めよ(自己を見
つめる) 西村 惠信

迷を大悟するは諸仏なり、悟に大迷
なるは衆生なり 藤田 一照

本来無一物 細川 晋輔

啐啄同時 松原 泰道

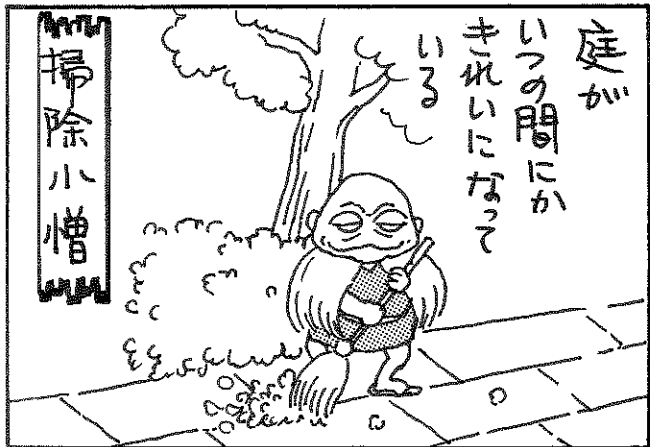
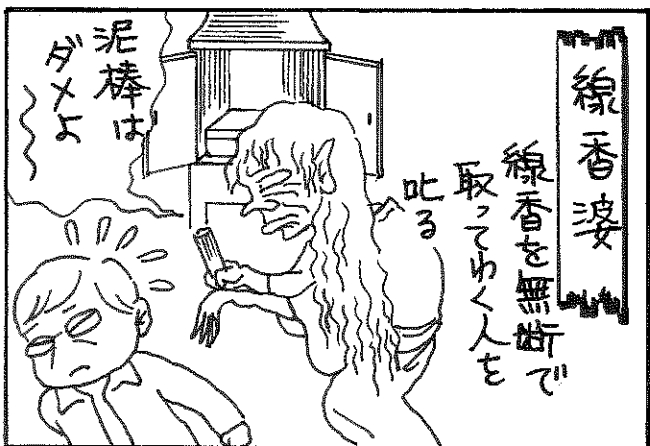
以心伝心 山川 宗玄

心を一方に置けば九方は欠けるなり
日々是れ好日 横田 南嶺

(敬称は省かせて頂きました)



ゼンツヨカツ日記



莫妄想

「禅僧は語る」より
直訳すると妄想を無くせとというこ
とですが「妄想を取り去ってしまえば、
そこはもうからりとした悟の境地とな
る」という、禅味のある教えです。
「妄想」という言葉は禅の文献では
「もうぞう」と読まれますが、一般的
には「もうそう」と発音されます。
とりわけ精神医学においては「現実
には存在しない、または誤った信念を
強く信じ込み、その信念の矛盾を指摘
されても修正できない状態」と定義さ
れ、心の病にもなう症状として扱わ
れます。被害妄想、誇大妄想、罪業妄
想などです。(続は本を読んで下さい)

持費納入のお礼とお願い

昨年十二月に、令和七年度分護持費
の納入をお願い致しましたところ、
早速大多数の方にお納め頂きました。
お礼申し上げます。
尚、当寺に墓地（合同墓地を除く）
を取得されておられる檀徒の方、また、
本堂内にご遺骨を預けておられる方で、
令和七年度分の護持費がまだ未納の方
は三月末日までには必ず納入下さいませ
ようお願いします。
過年度の護持費が未納の方は、過年
度分と合計した金額を納入して頂きま
すようお願い申し上げます。

当寺よりの領収書は発行致していま
せん。お振り込み頂いた時の受領書をも
って領収書に替えさせていただきます。
コンビニでの納入は、三月三十一日
までしか通用致しません。
四月一日以降は、郵便局での納入と
なります。

今年も、コンビニと郵便局どちらで
も通用する用紙にしましたが、会計処
理の面ではコンビニだけの方が楽では
ありません。近くにコンビニがない方
外は、今後はできるだけコンビニから
にして下されば有り難いのですが……。
ご協力のほどお願い致します。

住職より一言

檀信徒の方の訃報の一報が、葬儀社から入ることが多くなりました。

昔は隣組の方が二人でお寺に知らせに来られていたことを思うと、ずいぶん変わってきたことだと思っています。

電話で結構ですが、まずはご遺族の方から寺にお知らせ頂き、その後葬儀社の担当者日時などの打合せをするのが筋だと思っています。

また、故人の意志で葬儀しなくてもいい、戒名もいらぬなどという方がありますが、これは残された者に負担を掛けさせたくないとの思いで生前に言われたことと思います。

仏教徒であれば、授戒をして戒名を戴き、その上で葬儀式を行うのは当然のことです。

善勝寺では、墓地使用規則と合同船の納骨規定に、戒名を授与されていない方のご遺骨は納骨できないとなっております。

おられますのでご承知おき願います。ただし、葬儀の形態は問わないので、家族葬でも、一日葬、自宅葬などそれぞれ家の事情に応じてご検討下さい。不安のある方は、どうぞ遠慮なく事前にご相談下さいますようお願いいたします。

お寺からのお願い

年忌法要の集合時間のこと

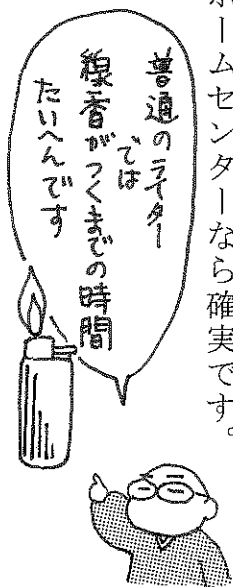
法事の予約時間は、読経開始の時間です。二十分前までにはご来山頂き、位牌やお供え物などをお渡し下さい。その後、案内があるまでは控え室にてお待ちください。

法要後は、会食される家以外は控え室の利用はできませんので、バックなど持ち物をもって、本堂にお入り下さい。冬季はコート掛けの利用ができません。

線香着火ライターのこと

観音堂の横に線香とライターが置いてあります。線香はお持ちでない方のため一束五十円で販売しますが、ライターは貸し出し用です。基本的にはご自身で線香とライターをお持ち頂くようお願いしております。

ライターは風があっても消えない、バーナー式（ターボ式）をおすすめします。スーパードでもあると思いますが、ホームセンターなら確実です。



編纂後記

*『善勝寺だより』春彼岸号をお届け致します。

*今年の彼岸法要はご案内のとおり、三月二十日（木曜日）午後二時から行います。

*もちろん、お彼岸は一週間あります。お墓にはいつお参り下さってもいいのですが、ご都合つく方は二十日にお参りいただき、ご一緒にお勤めいたしましょう。

*墓参用の生花のことですが、寺での販売は八月十三日施餓鬼会のみです。隣のコンビニ「ローソン」では、常時販売しています。ご利用下さい。

*次回「善勝寺だより」お盆号は、六月の下旬発行予定です。

*施餓鬼会、お盆に関することは、次号『善勝寺だより』にてご案内致しますので、これをお読み頂いたうえ、お問い合わせ下さいますようお願い致します。

弘道

